

## 第18回 アクラスZOOM寺子屋 感想

いろいろ勉強させていただきました。ありがとうございました。

藤本先生のご自身のChatGPTご使用経験に基づいたご説明と、要点がまとめられた分かりやすい資料、そして、要所要所に出てくる心に響く表現（例えば、「40代はPCが無かった時代を経験している」等）がとても印象に残りました。8月の夏休み、ChatGPTとの会話動画を取ってみようかと、今回の研修を受けて思いました。本当に有意義な学びの機会、ありがとうございました。

いつも自分の考えはズレているのだろうか、やっていることは的外れだろうか、そんな不安を抱えながらいろいろなことに取り組んでいますが、藤本先生に自信をもって前に進むように背中を押されたように感じています。いろいろな方のいろいろな使い方や考え方を知り、視野が広がりました。ありがとうございました。

デジタルネイティブの学生たちはChatGPTとも既にうまく付き合っていて、私の周りの学生たちはこんな使い方をしていました。なので、今回学んだことを受けて、こんなふうに考えてみました。まだまだ思考が高まっていなかったらごめんなさい。

①大学院受験のために研究計画書を書いています。

→受験校のルールを確認すること！！

これは工夫の余地ないですよ…。

②ディベートのときに、賛成と反対ではどんな意見があるのか調べてみた。自分の考えだけでは浅いから。

→褒めたたえました。是非バクリたいと思います。電子黒板で簡単にこの画面を共有できますし、学生から賛成と反対の意見を出してもらうのをこれで済ませれば、ディベートで使えるようになってほしい日本語力、反駁する力の指導にたっぷり時間がかけられます。

③意見文をChatGPTに書かせてみた。だが、その日本語が正しいのかどうか分からなかったから、結局使えなかった。

→冷静なる判断は素晴らしい。でも、どうせなら正しいのかどうか、間違えているならどう直せばいいのか一緒に考えよう！と、自分の日本語を添削する授業を試してみたくまりました。

④小論文の課題を書かせようとしたが、指示が悪くて、とんでもなく長い文章になり、長すぎて読めず、間違えているかどうかの判断もつかず、結局使えなかった。

→母国語と日本語とどちらでプロンプトを入れたらいいか、どんな指示文を入れればより正確になるのか、授業でみんな考えてみよう。

学生と一緒にプロンプトエンジニアで目指せ！年収5000万円！

たとえ一時でもいいです。上位の魔法使いになりたいです。

今回の寺子屋に参加して、ChatGPTに対する皆さんの意識やお考えを共有できてよかったです。世間では騒がれていますが、日本語教育業界での実情が把握できない状態でした。このように教育界、特に外国語教育という文脈におけるChatGPTの有効活用や、懸念材料など教育関係者と膝を交えながら情報交換を行って、今日的課題に対して理解を深めることは大切だと思いました。その上で、各自の方針や理念の基で、さまざまな判断や対応をしていくことが求められていると感じた次第です。貴重な機会を設けてくださり、感謝申し上げます。

この半年ほどとても気になっていたchatGPTの話を皆さんと一緒にいろいろな角度から話合えたこと、とても参考になりました。また最近の新しい流れについても教えていただき、こちらのほうもとても勉強になりました。chatGPTは、社会のために色々と役に立つところがあるように思いますが、最終的にはそれを使いこなす人間の方がもっともっといろんなことを学んで、成長していかないと、chatGPTをうまく相棒として、有能な秘書として使いこなせるようにはならないんじゃないかなあという感想を持ちました。今はまだつかの間のパートナーですが、おそらく将来的にはchatGPTも個別化され、自分のことを記憶し、自分の良いパートナーになるんじゃないかなと思いますが、逆にこちら相手の良いパートナーになれるように、変化を恐れずに、どんどん何にでもチャレンジしていくような気持ちで臨まないといけないなあと思いました。

今回、このような機会を設けてくださった嶋田先生に感謝いたします。

そして、やはりICT日本語教育といえば、藤本かおる先生ですね。

(コロナ初期の大混乱の中、「かおるバー」のママとして、いろいろな質問に答えてくださったり、ICT日本語教育に関して、発信を続けてくださったおかげで、救われた日本語教育関係者は、私を含めて多数いると思います。)

chatGPTに関して、いろいろな情報が錯綜する中、藤本先生によって、全体を俯瞰して現時点でわかっている事をわかりやすくまとめていただき、頭の整理になりました。知らなかったこともあり、勉強になりました。そのうえで何ができるだろうか、3つの問題提起をしてくださって、ブレイクアウトでの話し合いも、とても有意義なものとなりました。

そして、最後に「40代以上の方は、コンピューターもスマホもなかった時代をしっていることが強みである」とのお言葉に、とても励まされました。

今までICTに苦手意識があり、必要最低限のことは覚えてきましたが、これからもアナログとデジタルを、使い分けて、より効果的な使い方を模索していきたいと思います。ただ、何を使ったとしても、結局は人と人とのコミュニケーションが大事だと改めて思いました。

参加者の皆様のお話も興味深く拝聴いたしました。どうもありがとうございました。

実際にChatGPT使用の対策されている方のお話も聞けてよかったです。

懸念される使い方もありますが、BORで皆さんとお話する中で、それより学習者の日本語力の向上を目的にどんなプロンプトを入れたら、自律学習の役に立つのか、学習者とともに探っていきたい、お宝プロンプトを見つけたら、発信していきたいと思いました。

いつも興味深いお題でタイムリーに寺子屋を開催してくださって、ありがとうございます。

今回もとても中身のある内容で、ご講義くださった藤本先生、会を主催してくださる嶋田先生、質の高い感想やご意見をお話くださったご一緒した全ての先生に感謝申し上げます。

chatGPT今年度に入ってから自分でもどんな問いにどんな返しが来るのかを確認したく時折使ってみています。今回の学び、とてもいいタイミングで出会えたと感じました。事前に吉田類先生(東大)の動画もお送りいただいていたので、まだまだではあるものの少しずつ理解し始められた状態です。

今回のお話の中で色々なことが頭の中で浮かびました。うまく言語化できていないのがありますが、2つほど「これ、どうかな」と思ったこれからのあり方を感想として書き記させていただきます。

1)「共感力が高い返答をしてくれる」という部分：逆に教師が学習者への学習アドバイジングを行う際の「深化」させる「なぜそう思ったのか」「もし～だったら」などの問いを返してこないように感じました。(これは私がまだたくさん使用して学習させていないからかもしれませんが)この点から考えると、「今日の社会の中でともに学びを深め合う」存在としての教師と学習者の関係中では、教師の仕事が完全にAIに代替はされることはないよのではないかな。

2) 教師の仕事効率化の観点：作業的な意味での思考の部分で「あえて外した角度の転換」や「出てきた考えやアイデアの再検討」を整理する情報(ルーブルックで学習者成果物に評点を入れること)レジュメなどのまとめ作業という意味ではもちろん利用できるという理解までは持って、この回に参加していました。が、藤本先生の問いについてBORの先生方とお話して、別のことも効率化できるかという問いを考え始めたときに、「教師間の協働」というテーマでも効率化ができるのではというアイデアが浮かびました。

それは、<AIは人的なことをしてくれますが、人ではない。>ので、このことが人に与える心理的な作用を利用すれば、チームティーチングをしている講師間で、学習者評価を行う際、(例：同一ルーブリックに落とし込む際など)や活動のゴール設計、そこに至るステップ設計・確認などの時にさまざまなビリーフの違いなどから生まれる摩擦や忤度を、先にAIでの判定を<判定例>として見せることで(気持ちのすり減りのようなものを)軽減できる可能性もあるのでは、というものです。

この考えに至った時、「効率化」として私たちが追いかけるものはひょっとすると「作業的なもの」だけでなく人の意識、観点すり合わせなどで起きる精神的な消耗なども「効率化」し、より良いことにエネルギーを注げる体制づくりに集中するよう振り向けることができるのではないかとも思えました。(実践し、結果をえていることではないのであくまで思いつきレベルです)

先の共感力の高いコメントを返すということも、ある意味さまざまな面での人の営みやその背景となる考えの「ホワイト化」の一つのようにも思います。それが個性の否定に繋がれば必ずしもいい面ばかりではないかもしれませんが、人の持つ時間以外の面のリソースも効率化される、(AIを利用する場合だけでなくとも)「効率化できるように振る舞う」ことが求められている世の中なのではとも感じました。

少し長い文となりましたが(chatGPTでの精査はあえていたしませんでした) chatGPTをカスタマイズして「育てる」という表現を最近よく見かけますが、実はchatGPTが社会全体のあらゆる場面で私たちが今まで気づけなかった観点やあり方、関わり方をプロンプト以外の面でも「育てている」のかもしれないと思いました。

今回も頭の中をスピーディに高回転させて、いつもと異なる頭の中の回路まで動かせるいい時間でした。本当にありがとうございました。

今までも色々な新しい技術が開発されてきましたが、生成AIは今までとは違う社会を作り出すとてつもなく大きな変化を私たちの生活にもたらさそうです。なくなる職業がたくさんあるでしょうし、技術の進歩に取り残されるリスクもあります。教育の現場でも新たな問題がたくさん出てくると思います。こんなときだからこそ、集まって語り合える場が大切だと感じました。情報や意見を交換することで、この先に自分がどのような方向に向かえばいいのか、ヒントをもらうことができ、新たな視点も得ることができます。ChatGPTから得られる情報も非常に役立つものですが、今まで以上に教師の協働が必要なのではないかと思いました。このようなタイミングでこの場を設けてくださり、また藤本さんから貴重なお話を聞くことができ、大変感謝しております。ありがとうございました。

今の関心は教師自身が効率化のために、どこまで使っているのか。教師のオリジナリティが問われる場面で使用しても良いのか、使用した場合、例えば、授業の実践報告などの際に参考文献などと共にChatGPTの使用なども公にする必要があるのか、など。そう思うと、議論のトピックとなったルーブリックや評価など、客観性が問われるものは良いのではと思いました。これから大学でも仕事を始めるところなので、良いタイミングで知識の整理をすることができました。ありがとうございました。

ChatGPTについて知る機会をいただきありがとうございました。使うのにも能力が必要だと思いました。大量のデータがどのようなものなのかという知識、その中から自分の見つけたいものを探し出すためのプロンプトを提示できる力、などなど。そして、何でも一瞬でできてしまうのかと思いきや、意外と時間がかかるのだという事にも驚きました。ChatGPTに簡単に作成されてしまうようなレポート（作文）テーマではない「その人の考える力」を引き出せるようにしなければならないですね。ChatGPTに「使われる」のではなく「使っていこう」と思いました。

ChatGPTについては、色んなところで情報を少しずつ得ていましたが、今回の寺子屋に参加してそれらが繋がった気がします。結局のところ、生成AIを使う側の力量によって有益に使うことができるのだと改めて思いました。また、日本語学習者が「なぜ学ぶのか」という目的を理解できるように働きかけることの大切さに気付くことができました。そして、既に「プロンプトエンジニア」という仕事が存在することに驚きました。私自身は、プロンプトをうまく作れませんが、プロンプトも言語表現の1つですので、言語を使う新たな仕事があることに興味を抱きました。まずは生成AIを使ってみて、学習者にとって有益な使い方を探していきたいと思います。

話し合う中での気づきがあったので、この機会を与えてくださった皆様に感謝申し上げます。

自分が如何に適切な日本語で質問できるか教師自身が日本語力を高め、使用目的を明確にできなければならないと思う。

また、ChatGPTを使う事で、上級者は更により簡潔な日本語を見出す努力が求められるし、初級者は金銭的地理的リスクやアルバイトや塾で忙しい人には工夫次第では基礎的なコミュニケーション練習の機会を増やせるのではないかと思った。

既にAIを使った英会話コースもあるので、日本語教育も、学生が主体的に学べるように、AIに使われるのではなく使いこなせる知恵を教師側もより一層学習者と共に身につける不断の努力が求められると思った。

多分、質問の仕方を変えることで、日本語の文法知識もわかりやすく説明してくれるだろうし、いくらでも会話をテーマを変えて、どこでもいつでもお金もかけなくてもできることから、日本語教師は単なる語学教師としては淘汰されると思う。

日本の文化歴史を正しく伝えられる必要性や日本語が時代で変化することも考慮にいれ、生身の人間としての教師が、字面では読み取れない日本語日本文化をどう伝えていくか保護していくかが大きく求められるのではなからうか。

ある意味、オープンAIを学生だと考えると、いかに簡潔にわかりやすく教師の意図が伝わる日本語が必要かを工夫する練習にもなるが、日本語学校の講師としての役割はChatGPTでは難しい物が求められる。

かつて、家族がローカリゼーションに関わっていたとき、母語話者ではない翻訳者の文化背景を知らない使い方や時代や場面にあわない語彙の話を耳にしていたが、今回の学びをうけて、更に生身の日本語教師としての教室内運営の役割について、自分がやはり外国語習得に試してみて、再考し続けようと思った。ありがとうございました。

「ChatGPT」は登場から瞬く間に一般に普及し、その方向性は予測がつきません。禁止するのではなく教育での利活用を考えたいです。現代のデジタルネイティブ世代にはない、アナログ時代を経てコマンドプロンプトからコンピュータにかかわっている世代の強みを生かしていければと思います。ブレイクアウトルームでは考え方のヒントを得ることができました。「ChatGPT」の特性に合わせて、確かな目でいろいろなプロンプトを探って試してみたいと思います。ありがとうございました！

今回の寺子屋へ参加させていただき、ありがとうございました。ChatGPTに興味はあるのですが、あまりに便利だったら頼りきってしまう自分が見え、「使ってみたいけど、自分で考えなくなってしまうのではないか。それはだめだ。」と、なぜかストップをかけていました。しかし今回の勉強会で、ChatGPTを使う際は「適切に利用する」という姿勢を心がければ、仕事の効率化につながると思いました。そして、便利なツールを使うには、自分の知識も常にアップデートしてかなければならないと痛感しました。

生成AI、特にchatGPTについては、最初はかなり懸念をもって紹介され、問題点を指摘されることが多かったのですが、実際に生成AIを使った大学生への意識調査が行われたり、肯定的に取り入れるという意見ががたりするようになり、私はその時点で寺子屋に参加しました。私自身も懸念、否定という気持ちから徐々に意識が変化してきていたところでした。

今回の寺子屋で実感したのは、否定せずうまく受け入れて授業に生かすことの大切さと、生成AIはぐんぐん進化しているのでうまく利用して作文などを完成させようとする学習者も増えるだろうということでした。

作文が苦手な学習者が生成AIを利用したら、それを頭から否定していいものなのだろうか。その苦手意識を軽減しステップアップできる方法はないものだろうか。寺子屋で皆さんのお話を伺ううちに気持ちが変わっていききました。

その直後に次のような経験をしました。

学校で「もしかしたらこれは……」という作文を提出した学生がいたのです。その人は非常に作文が苦手で作文を出さない／出せないこともある人です。その人が今回はしっかり長文の作文を書いて提出したのです。私はそれを頭から否定することができませんでした。

よく読んでいくと、chatGPTらしい矛盾や情報ミスが見つかりました。翌日、修正の時間に、本人にその矛盾点と本当の情報を示すと、その人は目をそらさずに私の話を聞いて、自分が書いた内容を私に説明したうえで、その作文を読み返しました。そして、「修正箇所だけではなく全体を書き直したいから、もう一枚原稿用紙がほしい」と言ってくれました。chatGPTを使って書いてはいるのですが、よく考えて書いたこともわかりました。

新聞記事で私が読んだ大学生の意識調査では「生成AIを利用する場合、出てきた文章を批判的に見る」「情報が正確かどうかは自分自身で確認する」という答えがほとんどでした。でも、作文が苦手で苦し紛れに生成AIに頼ってしまった人の中には、このような姿勢で作文に臨むことはできない場合があると思います。「そうであれば、矛盾点を一緒に探し出して一緒に修正することも、その人が作文が苦手で全く書けない状況から抜け出す方法のひとつなのではないか。作文を書いたのはその学習者ではなく生成AIだから」という考え方ができるようになりました。

寺子屋に参加した時点で「作文は絶対に宿題にはせずに、自力で教室で書くようにしないと…」と思っていた私の意識も大きく変わりつつあります。

多くの時間をかけて何故その学習をしているのか、その目的や意義を教師と学習者が共有していること。生成AIを使っても使わなくても、結局はこれに尽きるのでは、と思いました。

今回の勉強会ではAIが利用できるという前提でのお話でしたが、PCすら無かった時代を知る私たちだからこその知恵を、デジタルネイティブ世代の彼らに伝えられたら嬉しいし、私たちがカバーできないところをAIに補ってもらおうという共存関係が上手くできたら、より効果的な学びになりそうだと思います。

生成AIの可能性と気をつけなければならないことが、具体的に見えてきました。改めて日本語を習得中のエンジニアの学生たちにChat GTPの使用状況を聞いてみたところ、ほとんど全員が使っていました。何に使っているか聞いたところ、旅行の日程の組み方を聞いたり、何か技術的にわからないことがあるとき、専門的な内容を調べるのに使っているということでした。あまり使いすぎないように気をつけている学生も少数派ではありましたが何人かいました。本当にありがたいセミナーでした。ありがとうございました。

藤本先生、嶋田先生、貴重なワークショップに参加できたことに感謝申し上げます。

AI特にChatGPTについて大変に興味を持ちながらも具体的なことを知らずに過ごしていたので、知見の第一歩をいただく良い機会を得ることができました。

知り合いからChatGPTを使ったメッセージをもらったり大学の授業でも学生がFeedbackにそれを使った文章を提出して来たりと、すでに日常において接触が始まっています。生活や特に仕事に関して、AIの活用がどのように有効に機能していくかを考え、実際に自身の実践に活かすように工夫していく努力がこれから求められるのだと実感しました。

教育のあり方は今後、否応無く変わっていくことは必至でしょう。学習者の学びや教授者の学びの両方の変化が新しい化学反応を引き起こしていき、もしかしたら想像以上の、創造的な新しい学びの姿が構築される可能性があるような予感がします。

こういった変化は怖さを内包しつつも、私はかなりわくわくしています。常に時代とともに新しい何かが登場すると周りは戸惑いながらも、試行錯誤の上、ついには革新的な形に取り込み、定着させていくという歴史があるからです。近い記憶で言えば、Facebookが登場したとき、私はアメリカにいたのですが学校側はすぐにそれを教育ツールに取り込み、活用できるように図りました。当時、もしこれが日本なら若者が楽しみのように使い始めていたFacebookを教育の現場と切り離そうと動いたのではないかと思ったことを覚えています。Skypeの登場の時もそうでした。さらに近いところで言えば、iPhoneなどの授業での活用も然りでした。日本に帰国後、日本の大学で英語を、そして日本語学校で留学生に日本語を教えていたのですが、大学ではiPhoneなどのwordや辞書機能使用は厳禁で、日本語学校では率先して使用許可という正反対の授業風景を体験してどちらが学びに有用なのか考えたことがあります。ずっと過去に遡ってみれば、物書きをしていた時、ワープロで打った原稿を編集者が邪道だ！と行って受け取ってもらえなかったという昔々の記憶もあります。今、あたりまえのように上手に現場で工夫して活用していることも、常に新しい物の出現は制限や拒絶を伴うものなのではないでしょうか。

今回のChatGPTでは、あまりにも認識を飛躍した機能の優秀さが使用する私たちの応用力の範疇を超えていることが問題なのでしょう。確かに学びの現場で、教える側がこれらAIの知識や対処法を獲得しないまま使って行くことは危険だと思われます。生涯学習という言葉を実感しながら藤本先生のお話を拝聴しました。ChatGPTの使用にはプロンプトが必須で有り、それ次第でできあがりにより差異が出ることやプロンプトのコツであるRELICの流れなど非常に興味深く、こういった思考や試行は教師側だけでなく、学ぶ側にそれらを育てさせる教育の流れもあり！と考えました。

今後の大きな変革や混乱が迫っていることは事実ですが、一つ言えることは、常に”時代の変化は止められない”ということではないでしょうか。学びを軸に教える側と教えられる側のあり方にも大きな変化が起こるかもしれません。当面は、アナログとデジタルと、ハイブリッドの海を泳ぎながら未知なる細胞形成がなされていくのではないかと、そして新細胞形成が私自身にももたらされんことを願うばかりです。有意義で興味深いワークショップへの参加を改めて感謝いたします。ありがとうございました。

藤本先生のお話を聞き、グループのみなさんとの話し合いの中で感じたのは、今後私たち教師はますます自律学習ができる学習者を育てていかなければならないということです。そのためにも、学習動機を高め、維持し続ける方法を模索したいと思いました。

私の職場で生成AIの話題と言えば、学習者の不正をどう防ぎ、どう公平性を保つかが中心になってしまっています。今でも翻訳アプリ等こちらが出す宿題をサポートするための便利なものがありますが、こういった便利な道具を禁止してもイタチごっこになるだけです。適切に使いながら学習していくためには学習動機を見失わず、出された課題を何のためにするのか、それによりどんな能力が身に就くのかを自覚する必要があります。今までなら、ただ「復習のため」と言っていた宿題等も、AI等に頼らず自力でやることの意義を教師が丁寧に説明していかなければならないのではないのでしょうか。

言語知識を教えるだけなら、今もいいビデオ教材等がありますが、今後は生成AIも進化して運用能力を養うための練習もできるようになりそうです。そうなると、私たちの仕事は学習そのものをデザインし、よりよい学習のためのコーチングをしていくことになるのではないかと考えました。

藤本先生、嶋田先生ありがとうございました。

最初に生成AIで何がどこまでできるのか、AI研究の第一人者ですらわかっておらず、社会適応が先行している状態だということをお聞きしました。意外なお話に驚きを感じましたが、藤本先生が生成AIを実際にどのように使っているのか、様々な実例を見せてくださり、未知なるものの可能性に期待感が大きく膨らみました。シラバスの作成例やご自身の学習の機械化の例、そしてプロンプトを上手に扱えば、仕事の効率化も可能であるといったお話を興味深く伺いました。教師が考えなくてはいけないこととして、生成AIを学習者が安易に使わないために学習者オートノミーを今まで以上に育てることが求められているというご指摘にハッとさせられました。これからは、生成AIが真の学習のサポート役を務めてくれるような利用の仕方を教師も学習者も協力しながら探っていきたいと思いました。

今日は、藤本先生、嶋田先生、貴重な機会をありがとうございました。使い始めることは、そう難しいことではないかもしれませんが。その先に、教師自身の使い方、学習者自身の使い方、それぞれを探求し、どう使いこなしていくのか、しっかりと向き合っていく必要があると感じます。教師自身の使い方は、さまざまな利用方法を試しながら、効果的に利用すればいいのではないかと考えますが、学習者と向き合うとき、教育的意味や学習者の学習意欲を考慮しながら、学習者が主体的に学びたいようになる使い方を模索していきたいと感じました。私は、日本語教育に携わる前はIT業界で働いていました。日々進歩する技術を習得し、課題を解決するために、大変な努力が必要でした。教育にとっても欠かせないのであれば、常に知る努力と使いこなす努力、そして、学習者のオートノミーに働きかける使い方、声のかけ方を、追求していきたいと感じました。そして、大事にするべきことは何か、しっかりと教育観をもって、取り組んでいきたいと思えます。

新しいものができた時に、それを危険視したり否定するのではなく、まず教師自身が使ってその経験を学習者と互いに共有するという姿勢が大切だと感じました。携帯電話もインターネットも、あるものがないことにはできません。

そういった意味で、単なる小手先の使い方や、レポートを自分で書かないのではなくかと危惧したり、それに対する防御策(?)も大切だと思いますが、まずは教師自身の教育観がブレないことと、学ぶことの意味をどれだけしっかり学習者に伝えられるのかも大きなポイントになるのではないかと感じています。なんだか抽象的な表現になってしまい申し訳ありません。